

I 実践

1 研究主題 『人権教育の精神の涵養を目指す人権教育の推進』

－教職員自らの人権意識を高め、家庭や地域との連携を深めながら、
教育活動全体を通じた児童生徒の人権感覚や人権意識の育成－

(1) 主題設定の理由

各教科・領域、総合的な学習の時間など教育活動全体を通して、自分とは異なる立場の人を理解する学習を行ってきた。しかし、人権における課題は多く、全ての生徒が、相手の立場や考えを尊重し、自分のこととして考える態度や差別や偏見の不当性などを理解するまでになっているわけではない。

そこで、授業や講演会を通して知識を伝えると同時に、体験や活動を通して自分と立場の違う人を理解し、思いやりをもった生徒を育成できるように、この主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 総合的な学習の時間を通して福祉の心を育成する。
- イ 道徳の授業を通して人権の意識を高める。
- ウ 生徒会活動を通して人間関係を深める。
- エ 外部講師による講演会を通して人権に関する情報や知識を得る。

2 実践内容

(1) 基底的指導における実践

- ア 生徒会や生徒指導部を中心に、あいさつ運動や「さわやかマナーアップ運動」を1年間を通して行った。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつできるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。
- イ ピア・サポート研修講座を実施し、好ましい人間関係づくりや友だちによる相談活動の活性化を図った。
- ウ 人権尊重のポスターを掲示し、啓発を図った。
- エ 人権作文や書道コンクール等に応募し、人権について考える機会とした。
- オ 性教育講演会、情報モラル講演会を開き知識を得た。
- カ 茨城朝鮮初中高級学校との交流を行った。

(2) ピア・サポート研修講座

教育相談員及びスクールカウンセラーの先生を講師として、年に4回行った。好ましい人間関係づくりや友だち同士による相談活動のためのエクササイズを行った。

活動は次の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
～「仲間と一緒に」「期待して」「待つ」こと～
- 第2回 プログラム「返事」
「バースデーライン」「一文表現」
- 第3回 プログラム「共感」
「数字合わせゲーム」「話の聞き方トレーニング」
- 第4回 プログラム「共感」
「私は何色?」「話の聞き方トレーニング」

(3) 講演会

ア 情報モラル教室

7月1日(金)、NTTドコモ「ケータイ安全教室」の本橋正樹先生を講師として「ネット社会の危険から命と未来を守るために」という内容の講話をしていただいた。生徒の他に保護者も参加した。携帯電話のメールや掲示板の書き込みで問題行動が起こり、被害を被っている生徒もたくさんいるという話をしていただいた。また、迷惑メールやチェーンメールが入ってきたらどうしたらよいかなど、加害者や被害者にならないための正しい使い方を教えていただいた。先生のお話は、例を示して具体的にお話しされるので、生徒たちに深く浸透した。

イ 性教育講演会

7月13日(水)、「おおたしろクリニック」の太田代紀子先生を講師として、講演会を行った。3年生を対象として「性感染症についての理解と予防法」について学んだ。講演の事前と事後にアンケートをとり、意識の変容をみた。

(4) 茨城朝鮮初中高級学校との交流

本校は茨城朝鮮初中高級学校との交流を行っている。

互いの文化祭に参加し合いステージ発表を行った。

坂本中学校の文化祭	茨城朝鮮初中高級学校の文化祭
朝鮮学校の生徒による発表 ・民族舞踊 ・民族楽器による合奏 ・ハングル語講座 本校の生徒と一緒に昼食をとり、楽しく歓談した。	坂本中生による発表 ・合唱 曲名「ふるさと」 朝鮮学校の2年生と互いに使ってる教科書を見せ合ったり、話をしたりした。 小学生から高校生までのステージ発表を見せていただいた。

(5) 「人権作文」「人権メッセージ」応募

「人権作文」への応募の他、3年生が全員「人権メッセージ」に応募した。また「男女参画社会」についての作文にも応募した。

(6) 地域の行事への参加

ア 大みか納涼祭り

生徒会が中心となり、今年から参加をした。ペットボトルの「水」、レインコート、マスクの販売やマーチングバンド演奏時の警備の仕事を行った。

イ 敬老会

福祉委員会が中心となって生徒に呼びかけ、地域の敬老会へボランティアの参加者を募っている。中学生は、お年寄りの接待案内や式典の司会を担当した。また、吹奏楽部もアトラクションに参加した。「ご長寿番組大メドレー」を演奏し、楽しんでいただいた。

ウ 福祉のつどい

敬老会同様、福祉委員会が中心となって参加者を募っている。「昔遊びコーナー」「血压測定コーナー」など様々な催し物があり、中学生はそれぞれのコーナーのお手伝いをした。

3 成果

- ピア・サポート研修講座では、活動を通して、人を思いやる心や友だちを大切にしようという気持ちが育ってきており、2年続けて研修する生徒も多い。また、今年度も開講にあたり、昨年受講した生徒が全校集会の場で活動内容や感想を述べ、参加を呼びかけることができた。研修終了後には、修了証を渡す予定である。
- 人権作文コンクールに多くの生徒が参加した。今年度は人権メッセージにも多く参加できた。
- 茨城朝鮮初中高級学校との交流は、「外国人の人権を尊重しよう」という人権課題に取り組める機会である。生徒は国籍の違いを意識することなく楽しくおしゃべりしたり、民族舞踊のすばらしさに感動したりしていた。人権に国境がないことを感じ取ることができた。
- 地域の行事では、お年寄りや小さな子供たちとふれあうことで、生徒も優しい気持ちになり、思いやりの精神も養うことができた。3月の東日本大震災があり、生徒自ら自分たちでできることをやりたいという声上がり、「大みか納涼祭り」にボランティアとして参加した。思いを行動に移すことができたところが大きな成果であった。

II 今後の課題

毎年継続して性教育講演会や情報モラル教室を実施しているため、生徒は命の大切さや男女の人権、携帯電話やメール使用についてのマナーやルールに関する情報や知識を得ることができている。しかし、一度だけでは忘れてしまうこともあるので、これからも継続していくことが大事である。また、人権意識を育てるために、様々な体験をさせていきたいと思っている。本校の特色である茨城朝鮮初中高級学校との交流を続けるとともに、地域の行事にも積極的に参加していきたいと思うが、生徒の固定化もみられるので、もっと多くの生徒に参加できるように教師も呼びかけていきたい。